

# AED の使用手順



ここでは、AED の使用手順について、簡単にご紹介いたします。  
心肺蘇生を行っている際に、AED が届いたらすぐに AED を使う準備を始めます。  
AED にはいくつかの種類がありますが、どの機種も同じような手順で使えるように設計されています。AED は、電源を入れると、音声メッセージと点滅するランプであなたが実施すべきことを指示してくれます。落ち着いてそれに従ってください。  
AED を使う準備をしながらも心肺蘇生をできるだけ続けてください。

## ③心電図の解析



「体に触れないでください」等と音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。操作者は、誰も傷病者に触れないよう注意を促します。

## ④電気ショック



自動的にエネルギーの充電を始めます。操作者は、誰も傷病者に触れないよう注意を促し、誰も触れていないことを確認してショックボタンを押します。

## ⑤心肺蘇生の継続



電気ショックを行ったら、直ちに胸骨圧迫を再開します。救急隊員と交代するまで、心肺蘇生と AED の使用の手順を約 2 分間おきで繰り返します。

## ①電源を入れる



AED 本体のふたを開け、電源ボタンを押します。(自動的に電源が入る機種もあります。) それ以降は、音声メッセージ、点滅するランプに従って操作します。

## ②電極パッドを貼る。



傷病者の衣服を取り除き、胸をはだけます。  
電極パッドの袋を開封し、電極パッドをシールからはがし、粘着面を胸の肌にしっかりと貼り付けます。貼る位置は、胸の右上（鎖骨の下）および胸の左下側（脇の 5～8cm 下）です。可能であれば、電極パッドを貼り付ける際も胸骨圧迫を継続してください。  
※胸が濡れている場合や胸に貼り薬が貼られている場合は、タオル等で拭き取ってから電極パッドを貼ります。  
※心臓ペースメーカーや除細動器が胸に植込まれている場合は、そこを避けて電極パッドを貼ります。  
※ AED 本体には小学生～大人用と未就学児用の 2 種類の電極パッドが入っている機種や通常用と未就学児用モードの切り換えがある機種があります。AED によっては、成人用、小児用パッド（モード）のものもあるので注意しましょう。

# 心肺蘇生の手順



ここでは、心肺蘇生の手順について、簡単にご紹介いたします。  
誰かが倒れるところを目撃したり、倒れているところを発見した場合には、近寄る前に周辺の安全確認をしましょう。車が通る道路等に人が倒れている場合などは、特に気を付ける必要があります。また、状況にあわせて自らの安全を確保しましょう。  
もし、救助者が 2 人以上いて、交代可能な場合には、疲労により胸骨圧迫の質が低下しないよう、1～2 分間程度を目安に交代するのがよいでしょう。

## ①反応（意識）を確認する



傷病者の耳もとで「大丈夫ですか」などと大声で呼びかけながら、肩をやさしくたたき、反応があるかないかを確認します。

## ② 119 番通報と協力者への依頼



協力者へ「119 番へ通報してください」、「AED を持ってきてください」と具体的に依頼します。  
※協力者がいない場合は、まず 119 番へ通報します。

## ③呼吸の確認



「普段どおりの呼吸」をしているか確認します。  
※次の場合などは「普段どおりの呼吸なし」です。  
胸等の動きがない・約 10 秒間呼吸の状態が不明

## ④胸骨圧迫



AED の効果を高めたり、後遺症を少なくすることが期待できます。ためらわず、胸骨圧迫を開始します。



傷病者の胸が約 5 cm 沈むまで真上から垂直にしっかりと圧迫します。1 分間に 100～120 回の速いテンポで連続して絶え間なく続けることが大切です。  
※小児には体格に応じて片手で、乳児には指 2 本で胸の厚さの約 3 分の 1 が十分に沈む程度に、強く、速く、絶え間なく圧迫してください。

## ⑤人工呼吸



気道を確認し、額に当てた手の親指と人差し指で鼻をつまみます。大きく口を開けて、空気が漏れないように口を覆い、約 1 秒間息を吹き込みます。

切り取り線

切り取り線

繰り返し

このページは切り取り線から切り取って保管することをおすすめします。

このページは切り取り線から切り取って保管することをおすすめします。